

## 主の昇天

2013.5.12

ルカ 24・46-53

今日私たちは主の昇天の祭日を祝っています。十字架の上に死に、墓に葬られたイエスは復活して、天に昇り、父なる神の右に座しておられる。これが、私たちがカトリック信者となることによって、信じているイエス・キリストのお姿です。私たちはミサの度ごとに、カトリック信者となることによって受け入れたこのようなイエス・キリストを信じていることを、信仰宣言を唱えることによって再確認しています。そのような私たちにとって、今日祝っている主の昇天の祭日は、カトリック信者としての私たちの信仰の鍵となる、特別に重要な信仰の祭りです。主の昇天の祭日が何故それほど重要であるかと言うと、福音書を通して知ることが出来たイエスというお方は、父なる神のみもとに昇られて、今の私たちにとっても主となられたことを私たちは祝っているからです。

福音書が語ることによれば、復活されたイエスは、イエスの十字架の死の後に弟子たちが生きることになった、弟子たちの現実の中にご自分が復活されたことを示すために現れてくださいました。イエスの十字架の死によって弟子たちが生きることになった現実の中で、弟子たちに現れてくださった復活のイエスは、十字架の傷跡を身に負ったイエスでした。そのようなイエスと向かい合う者たちとされたことによって、弟子たちは、イエスの十字架の死という自分たちがそれに耐えきれずに思わず身を引いてしまった、あの過酷な現実が復活のイエスにとっては乗り越えられたものとなっていることを知ることが出来たのです。それだけではありません。十字架の傷跡を身に負った復活のイエスが、「あなたがたに平和」と呼びかけてくださったとき、弟子たちは、イエスの十字架の死という現実を引きずったままの、その現実から逃れられないでいる自分たちが、復活されたイエスの復活のいのちの中に包み込まれていることを知ったのです。そのようにして、弟子たちは、イエスを十字架の上に見捨て、イエスを裏切ってしまった彼らの現実の中から、復活のイエスによって、イエスの復活のいのちの世界へと連れ出されたのです。十字架の傷跡を残した復活のイエスと向かい合う者たちとされたことによって、弟子たちは、十字架の上にイエスを見捨て、イエスを裏切ってしまった自分たちの現実もまた、復活のイエスのいのちの輝きの中で、乗り越えられていることを悟ったのです。復活のイエスが「あなたがたに平和」と呼びかけてくださったことによって、弟子たちは、十字架のあの現実にもかかわらず、イエスと自分たちとの絆は十字架の上に死んで行かれたイエスの側からは断ち切られていないことを知ったのです。

自分たちは、あの十字架の挫折にもかかわらず、イエスにとってイエスの弟子であり続けていることを知ったのです。復活のイエスがもたらしてくださった復活のイエスとの出会いによって、弟子たちは彼らが生きた現実の中で、十字架の死を越えて復活されたイエスの愛とゆるしを経験したのです。

今日、私たちは復活されたイエスの昇天を祝っています。復活されたイエスが昇天されたことによって、弟子たちがあの時経験した、復活のイエスが弟子たちの中にもたらしてくださったことの全ては、弟子たちだけの経験を超えて、天地を越えて広がる出来事となったのです。弟子たちが経験した復活のイエスとの出会いは、イエスの昇天によって、そのイエスを信じる全ての者たちの普遍的なイエスとの出会いの経験を開くものとなったのです。十字架の死という現実を越えて復活されたイエスは、自分たちの現実の中にとどまっている弟子たちを、イエスが生きる復活のいのちの中に招き入れ、現実を超えた、その復活のいのちをもって弟子たちを包み込んでくださったのです。弟子たちは復活のイエスとの出会いによって、この世の現実の只中で、この世の現実を越えた復活のイエスの弟子たちとして新たに歩み始めたのです。弟子たちが経験したこのようなことが、イエスの昇天によって、そのイエスを信じる私たちの現実の中における信仰の経験となったのです。

十字架の上に死んで、墓に葬られ、三日目に死者のうちから復活し、天に昇って全能の父なる神の右の座についておられるイエスを、カトリック信者である私たちは信じています。今日の第一朗読で聴いた使徒言行録では視覚的な表現によって、天に昇って行かれたイエスは、やがて栄光の雲に包まれて弟子たちの目には見えなくなると語られています。現実の世界にとり残された弟子たちがなお天を見上げていると、彼らの側に立った天使が「天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見た有様で、またお出でになる。」と告げたのでした。父なる神の右の座に着かれたイエスは、あの時、弟子たちが見上げたお姿をもって、すなわち、復活の主として、再び来てくださると天使は告げているのです。信仰宣言に表明されている伝統的な信仰の教えによって、私たちは世の終わりの時に、父なる神の右の座におられるイエスが、生きている者たちと死んだ者たちとを裁くために再び来られることを信じています。けれども、今日の第一朗読の使徒言行録が私たちに告げていることは、世の終わりにおけるキリストの再臨ということだけではないかもしれません。むしろ、イエスの昇天によって、私たちが生きる現実の世界は、十字架の死を越えて復活され、天に昇ったイエスがそこに来て下さる場となったということをお今日の第一朗読は私たちに告げているのです。私たちが信じている天に昇られたイエ

スは、弟子たちの現実の中にその姿を現してくださった復活のイエスとして、十字架の死を越えて復活されたイエスを信じている私たちの中にも、この世の現実を越えた復活の主として来てくださるのです。そのようなことを可能にするために、復活されて天に昇り、父の右の座に着かれたイエス・キリストは、弟子たちの上に聖霊を遣わしてくださったのです。聖霊降臨の恵みの中で、「わたしは世の終わりまであなたがたとともにいる」と言われる復活の主の約束のことばは、弟子たちが立ち向かうこの世界の現実を切り開く力となったのです。そのようにして復活して天に昇られたイエス・キリストは、十字架の傷を身に帯びた復活の栄光に輝く私たちの主として、弟子たちから始まった教会の宣教を受け入れてイエス・キリストを信じる者となった人々の中に、ここに集う私たちの中にも、世の終わりまでともにいてくださることを示すために、今日も再び来てくださるのです。

今日も私たちは、このミサの中で、私たちのもとを訪れてくださった復活の主のみことばを聴き、その十字架と復活によって、私たちに永遠のいのちを与えてくださった、復活の主のいのちの体をこの身にいただくのです。

弟子たちの中に立たれた復活の主が弟子たちの目を開いてくださったように、天使のことばが、栄光の雲に包まれて昇天されたイエスの現存の近さを弟子たちに悟らせたように、このミサを通して私たちの上に注がれる聖霊の力によって、私たちの信仰の心が開かれ、私たちの現実を越えて復活された主イエス・キリストが私たちとともにいてくださることを悟ることの出来る恵みを願いながら、今日の主の昇天の祭日のミサをとともにおささげしたいと思います。

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高